

# 1. 調査報告概要表

作成日 2008年8月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	"0175000835"
法人名	特定非営利活動法人 すばる
事業所名	グループホーム すみれ
所在地	北見市留辺蘂町花丘22番地31 (電話) 0157-45-3011

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年7月30日

## 【情報提供票より】(20年6月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 10 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建て
------	----------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	17,000~22,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,100 円				

### (4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	9名	男性	6名	女性	3名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北見中央病院 ・ おんねゆ診療所
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームすみれは、温根湯温泉街を少し山側に進んだ緑豊かな自然に恵まれた場所に位置し、周りには畑が広がっています。ホームの裏庭にも家庭菜園があり、芋・キャベツ・えんどう豆・かぼちゃなど多くの野菜を作っています。畑作業を手伝ってくれる隣人もおります。収穫を楽しみにしている利用者も多く、自分達で作った新鮮野菜が食卓に上がると会話が弾みます。又、寿司を握れる職員の本格的な握り寿司により、普段より食欲増進となっています。家族と一緒に焼肉やクリスマス会を行ったり、誕生会には利用者が手品を披露するなど、いつも笑顔と笑い声が満ちています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の災害対策では、災害時等に地域住民が協力してくれる体制を作っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を作成するにあたり評価の意義は十分理解しています。外部評価につきましても、ミーティング等で話し合いサービスの質の向上に努めています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	7月に1年ぶり2度目の運営推進会議を行い、参加者は、消防署職員・包括支援センター職員・民生委員・地区住民代表・利用者家族等で構成され、ホームの活動状況、防災対策、サービスの要望、助言について話し合われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告は、ホームの様子を写真入りで紹介した『すみれ通信』と、預り金の収支報告を毎月の請求書と一緒に送付しています。家族の訪問時にも利用者の近況をお伝えしています。また、遠方に住んでいる家族には電話で近況をお知らせしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入しています。ホームの近所にはあまり民家がありませんが、地域の盆踊り大会やつつじ祭りに積極的に参加し地域の方と交流を図っています。利用者も地元出身で顔見知りも多く、気軽に立ち寄ってくれる隣人や地域の方もいます。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して暮らし、地域生活の継続を支えるための理念を作り上げ、理念の共有を図っています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に、理念『長い人生の主役です。自分らしくゆつくりとのんびりと』を見易い場所に提示し、日常的に実践出来るよう毎朝のミーティングで話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭や、盆踊り等には利用者と共に積極的に参加して地域交流を図っています。又、気軽に立ち寄ってくれる隣人や地域の方もいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組んでいます。又、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて検討し今後の業務に活かせるよう努めています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月末に1年ぶり2度目の運営推進会議を開催しました。利用状況や防災対策等について話し合わせ、災害時には地域住民の協力も得られるようになりました。今後は2ヶ月に1度の開催を予定しています。	○	今後は自己評価及び外部評価の結果を公表しながら委員の助言を得るなど、運営推進会議と評価が一体的に活かされるよう配慮してサービスの質の向上に期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員や市町村担当者とは、積極的に交流をもつようにし、サービスの質の向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に請求書とその月の様子を写真入りで、すみれ通信を送付しています。又、預り金の収支一覧も送付し、来訪時に金銭出納帳と領収書で報告し確認しています。遠方の家族には電話で近況を報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を重要書類説明書に記載したり、話しやすい雰囲気づくりに留意し、家族が気軽に意見・苦情等申し立てられるよう配慮しています。家族からの意見・要望は、ミーティング等で話し合い運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族への信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応する事が大切だと考えていますが、やむなく離職した場合は言葉掛け等でフォローしています。又、新しい職員が入る場合も、利用者నికిちんと紹介し他職員がフォローし馴染めるよう努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に多くの職員が参加出来るよう働きかけていますが、研修の頻度が少ない様に思われます。ミーティング時やその都度気付いた事を、職員に伝えて質の向上に努めています。	○	外部研修のみならず、年間計画的な内部研修の充実と職員がミーティング等での研修報告や、報告書を閲覧できるような体制づくりを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームとの交流はありますが、他のグループホームとの交流はされていません。	○	他のグループホームとの交流は、自らのホームサービスを振り返る貴重な効果をもたらします。交流を行いながら職員のスキルアップを図れるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学してもらうことから始め、管理者・スタッフは本人や他の利用者の状況に配慮しながら生活に馴染めるよう支援が行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを職員全員が認識しており、おせち料理や山菜の調理法など普段からいろいろ教わっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴・個人史を尊重し、また日々のかかわりのなかでの言葉や表情から利用者の意向や希望を把握し、職員間で共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き、担当者会議において職員間で話し合い、介護計画の作成に努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングによる見直しを行い利用者の状態変化を把握し、家族への報告と相談、職員間で話し合い随時介護計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて通院介助や送迎支援、又、買物、理容院など外出支援も行っています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望による医療機関への受診が出来るよう支援しています。また、協力医による往診、緊急時の支援体制も出来ています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び看取りに関する指針を定めており、家族には説明し同意を得ています。又、本人及び家族の希望を尊重し今後の方針等を共有できるよう努めています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の配慮、日常生活における利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応、声掛けを職員間で協議し努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、自分らしくゆっくりのんびりと過ごせるよう、職員間で情報を共有した支援に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスに配慮した献立を行っています。ホームで育てた野菜を使った料理を利用者と一緒に調理したりしています。また、食材の買物や食器を洗う・拭くなど職員の見守りの中、利用者が積極的に行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は毎日でも入浴出来るよう支援しています。又、入浴を嫌がる利用者には、無理強いせずに言葉掛け等工夫し週2回は入浴出来るよう支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや掃除、山菜取り等、利用者の経験や知恵を發揮する場面を作っています。又、利用者にはパークゴルフ・畑仕事などそれぞれ楽しめるような支援に努めています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、心身の活性につながるよう日常的に散歩や買物、チューリップ公園やつつじ祭り、菊祭り、等少しでも外出の機会を作るよう努めています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、チャイムや職員の見守りで対応し夜間のみ施錠しています。又、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮した支援をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは作成されており、年2回避難訓練を行い、運営推進会議で地域の協力体制について話し合わせ、協力体制も出来ています。	○	あらゆる場面を想定した訓練が必要だと思われます。ホーム職員のみならず、地域の方々も一緒に参加した訓練の実施を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせた食事形態・摂取方法や食事量及び栄養バランスは良く検討されています。食事や水分の摂取状況は毎日チェックし記録し、職員が情報を共有しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングにテレビ・ソファが置かれ、日当たりや風通しもよく、とても心地よいスペースとなっております。利用者それぞれお気に入りの場所があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、思い出のある家具や仏壇・調度品が持ち込まれ、安心して生活出来る様配慮しています。		